

### ～由良を元気にする活動の拠点に～



10月2日(火)午後2時30分、鶴岡市由良にある旧フィッシングセンターに由良自治会活性化委員会の皆さんが集まりました。

由良地域では、今年4月から鶴岡市が所有する海洋釣堀と旧フィッシングセンターを借用し、その施設の運営と施設管理を行っています。

昨年11月、由良地域では、これから10年後のあるべき姿を見据えて、地域の思いをひとつにするための話し合いを始めました。

旧フィッシングセンターは、地域活動に関わる多くの組織が地域を元気にする活動の拠点として、活用したいと考えているものです。

その取組みの第一歩として、施設の見学会が行われました。



顔合わせ



施設内の見学

県、鶴岡市、それぞれの関係課ができることをお手伝いしていこうと、タスクチームを立ち上げました。地域の課題、組織の課題をひとつひとつ整理しながら、施設の活用に向けて話し合いを進めていきます。

県は、引き続き、地域の熱い思いを応援していきます。

## ～加茂地区グランドデザイン検討委員会ワークショップ～



10月2日(火)、加茂地区コミュニティセンターにおいてワークショップを行いました。

ワークショップは今回が5回目。

今回の作業は、これまで出てきた提案で、すぐ着手するものの中から、自分たちが実践できる提案を絞り込むこと。

「やれることをやろう、やらなければ何も始まらない」という田中自治振興会長の気合の入ったあいさつを受けて、班ごとに作業が始まりました。

前回まとめたものを見返してみると、今の段階では現実的でない、と思えるものも出てきます。

それでも、その理想に近づくために「やれることをやろう、やらなければ何も始まらない」…今できることは何か、どこまでできるか、それぞれの考え、思いを伝えあいました。



絞り込んだ提案の実現に向けて、班を再編。

次回は実践に向けたスケジュールを立てます。

それぞれの思いを話すことで、新たな発見や意思の疎通、考えの共有が図られるワークショップ。

加茂の地域づくりは、また一歩、動き出しました。

これから地域のためにできること…自分たちが納得できるこたえを求めて。

それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

皆さんの熱い思いで、地域を元気にしていきましょう。

そんな皆さんのお手伝いをしていきます。



～今年は14種を確認～



10月11日(水)、庄内町家根合の家根合揚水機場で魚の学習会が行われました。  
庄内町立余目第一小学校の4年生42名を対象に、地域の方々と最上川土地改良区の協力により、毎年実施されています。



今回捕まえたのは、カワヤツメやマルタニシなどの絶滅危惧種を含む14種。例年に比べ、魚種は少ないものの、子どもたちは、泥んこになるのもかまわず、一生懸命捕まえていました。



種類と生態を説明

最上川土地改良区の後藤さんが、揚水機場の役割とファームポンドに入ってきたこれらの魚は、どこからやってくるのか、それぞれの魚の特徴について、子どもたちに説明しました。

「いろいろな魚がいることを知ることができた」「魚を捕まえて楽しかった」などの感想を聞くことができました。

子どもたちの生き生きした笑顔を見ることができて、関わった大人もいい経験をさせてもらいました。

～稲刈りが始まりました～



庄内の棚田でも、稲刈りが始まりました。  
黄金色の棚田、さわやかな青空。さあ、棚田に出かけよう！



10月4日 鶴岡市越沢の棚田



10月9日、ほぼ刈取りを終えた鶴岡市大網の棚田



～2018秋号 配信しています～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

秋号は、10月11日に山形県HPにアップされました。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」秋号

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回の特集は、「地域の想いを若い世代へ」。

地域の農業を引き継ぐための基盤整備、地域を守る施設の管理、若手農業者を育てる町、農業で地域の活性化を図る仕組みづくり、地域の想いを様々な視点で取材しました。

庄内からは、株式会社あつみ農地保全組合。鶴岡市温海地域が抱える課題を整理し、農業で生計を立てる仕組みをつくるのが地域活性化につながる...組合設立の経緯とこれから目指す姿を紹介しています。ぜひご覧ください。

～棚田や地域の取組みを紹介～



10月13日、14日の両日、県内の棚田や中山間地域の取組みを紹介するイベントに行ってきました。

○山形県農林水産祭～山形県総合運動公園にて

『県農村計画課』ブースでは、県内の棚田地域を応援する企画として、「やまがたの棚田20選検定」「わたしの棚田カード」「缶バッジ」づくりを実施しました。

「やまがたの棚田20選検定」は、抽選で棚田米が当たるといことで300名を超える方々が挑戦しました。



お客さまでにぎわう『県農村計画課』ブース

○つるおか大産業まつり～鶴岡市小真木原運動公園にて



農業委員会ブースでは、中山間地域における耕作放棄地対策について展示し、その取組みを紹介していました。



11月上旬にかけて、各地で開催されます。  
庄内の秋を探しに、ぜひお出かけください。



## 加茂秋祭り

### ～加茂地区で初めて企画～



10月14日(日)、鶴岡市加茂レインボービーチ脇にある加茂緑地において『みなとオアシス加茂 秋祭り』が行われました。



秋祭りは、加茂地区自治振興会地域振興部が地域活性化のため活動する「一般社団法人 大好きな加茂」などの地元団体と連携して、初めて企画したものです。



地域課題の解決に向けて動き出した、加茂地区。

「やれることをやろう、やらなければ何も始まらない」…ひとつひとつ、経験を重ね、これからの地域づくりにあたって、地域の皆さんの自信につながればいいな、と感じました。

加茂の地域づくりは、また一歩、動き出しました。

これから地域のためにできること…自分たちが納得できるこたえを求めて。  
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

皆さんの熱い思いで、地域を元気にしていきましょう。  
そんな皆さんのお手伝いをしていきます。

## 八久和ダムの役割

### ～水力発電で地域に貢献 東北電力～



10月15日(月)、職員研修として『赤川水系八久和ダム見学会』を実施し、現地において、東北電力株式会社酒田技術センター赤川ダム管理所の鈴木所長から説明いただきました。

八久和ダムの最大の目的は、水力発電による電気の安定供給ですが、庄内平野へのかんがい用水供給、通年放流による河川環境維持、河川増水時の下流域への増加量抑制の役割も担っています。



取水塔の概要



ゲート操作と管理について



鶴岡市上田沢の先から林道を車で1時間ほど走り、ようやく堤体に到着。  
管理、点検に労力と費用を要する施設であることを実感しました。

今年7月の渇水の際は、農業用水確保のため、東北電力をはじめ関係団体が八久和ダムの放流について、検討を行いました。

放流決定の直後に雨が降ったため、放流はしませんでした。これからも、関係者が情報を共有し、協力できる関係を続けていきたいものです。



～冬の使者の寝床 大山上池・下池～



渡り鳥の越冬地として知られる鶴岡市「大山上池・下池」。  
今年も、コハクチョウやマガモが池で羽を休める季節となりました。



渡り鳥がやってきた 大山下池

農業用ため池として管理されている両池は、2008年にラムサール条約に登録されました。  
この条約の3つの柱は、湿地の「保全再生、ワイズユース(賢明な利用)、CEPA(交流、学習)」。環境は人と関わりを持つことで、守られ維持されるという考え方です。  
2012年、自然環境の学習交流の拠点施設として「鶴岡市自然交流館ほとりあ」が開館し、多くの市民が訪れ、学習を通じて湿地とのかかわりを持ち始めています。



鶴岡市自然交流館ほとりあ

ラムサール条約登録から10年。  
地域の自然と私たちがどうかかわっていくべきか、改めて考えてみましょう。

～農村環境保全指導員の活動状況24～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

10月19日(金)、鶴岡市鶴岡地域の鈴木正農村環境保全指導員の活動『薪作り体験会』に行ってきました。

三瀬保育園のストーブで使う「薪」。自分たちで作ってみよう！



鈴木指導員のお話を聞く園児の皆さん

薪作り体験の活動は、周囲の自然、地域の方々との触れ合いにあふれていました。



「よいしょ」みんなでかけ声をかけて応援



慎重にのこぎりで切る



機械を使った薪作りにも挑戦



竹の薪をつくってみよう

機械や斧など、危険な道具を使う活動であっても、地域の方々の協力により、安全で楽しいものになります。

自分で割った薪は、自分でカゴに収める。やりっぱなしにしない、片付けるまでが薪作り体験です。

自分でなんでもやってみる、好奇心あふれる目で、真剣に取り組んでいる子どもたちに、地域の方々も一生懸命に向き合う姿がありました。



おやつは薪を焚いて焼いた、ほくほく焼き芋

園長先生によると、4歳児での経験は、大人になっても鮮明に覚えている、とのこと。

園児からは、「いっしょに割ってくれて、ありがとう」「遊びみたいで楽しかった、ありがとう」「お手伝いさせてくれて、ありがとう」「ヘルメットをかぶってやるのができた(安全を考慮してくれて)、ありがとう」と地域の方々へ感謝の言葉のプレゼントがありました。

今回の体験をとおして、地域を思う心、自然を感じ環境を大事にする心、が養われるんだなあ。

鈴木指導員の活動は、「人と地域をつなぐ」ものです。

活動に関わった方を笑顔にする、元気な人と地域をつくる、鈴木指導員の目指す地域づくりをみた活動でした。



～基幹水利施設の雪囲い～



10月25日(木)、庄内赤川土地改良区と因幡堰土地改良区が共同管理する大鳥ダムの雪囲い作業に同行しました。

最寄りの道路から徒歩で片道3時間の道のり。今年は健脚ぞろいだったようで、2時間半で到着しました。



大鳥ダムは、約1万ヘクタールの受益を補水する基幹水利施設のひとつ。毎年6月から10月までの5か月間、月に1度、徒歩で行き来して点検・管理を行っています。

今年の7月は、赤川の流量が不足したため渇水状態となり、4日間かけてダムの放水を行いました。



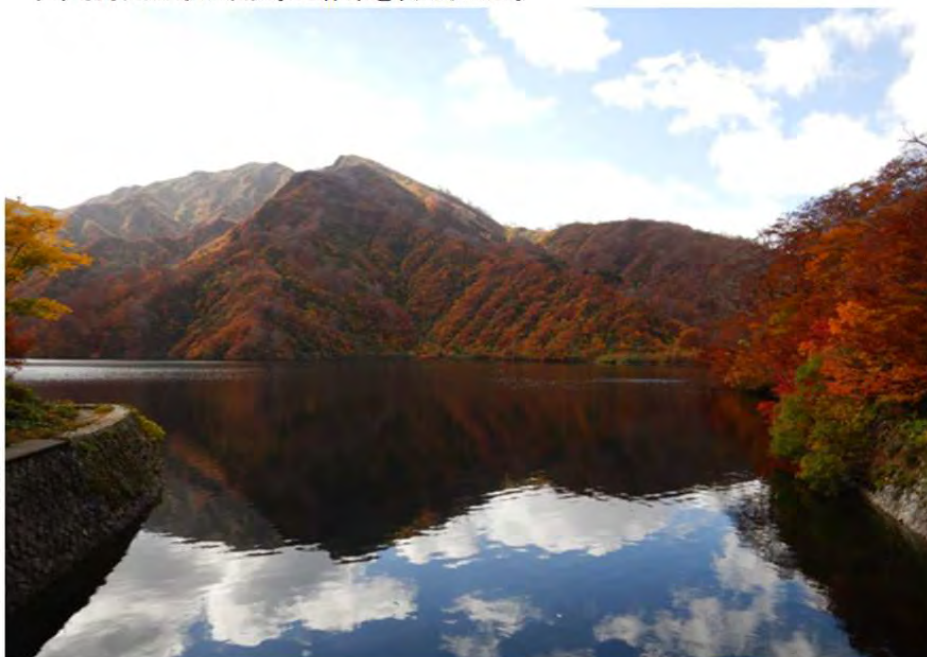
ゲートでの作業状況



雪囲い完了

ひと足早く冬を迎える大鳥池。

今年も好天のなか、無事に作業を終えました。



～農業農村の多面的機能を紹介～



10月27日,28日の両日、酒田市と鶴岡市のイベントに行ってきました。

○酒田市農林水産まつり2018～酒田市国体記念体育館及び周辺特設会場にて

『最上川下流右岸地区土地改良施設管理体制整備推進協議会』ブースでは、田んぼクイズにより、洪水を防ぐ、地下水を潤す、たくさんの生きもののすみかとなる、などの田んぼのはたらきを紹介したり、農業用施設の役割をPRしました。



クイズやぬり絵でにぎわうブース

○ふじしま秋まつり つるおか食の祭典2018～鶴岡市藤島体育館にて



会場の状況

有名料理人による地場産野菜スペシャル料理

一雨ごとに、庄内の秋も深まってきました。  
今週末も、各地でイベントがあります。ぜひ、お出かけください。



## ～越沢新そばまつり～



11月3日(土)、4日(日)の両日、越沢自治会が運営する「まやのやかた」において、今年も『越沢新そばまつり』が開催されました。



9:30の開店前からにぎわう「まやのやかた」



待ち時間、大滝自治会長が棚田カードを紹介 今年初、三角そばせんべいづくり体験

3日夕方、TUY「どよまん」で生中継されたこともあり、4日は開店前から多くのお客さまが訪れました。  
平成28年10月、山形大学農学部の江頭教授の調査で在来作物と確認された「越沢三角そば」。29年3月にまとめあげた「越沢活性化ビジョン」には、そのブランド化推進と生産拡大の計画が盛り込まれています。

今回、「自然薯をつなぎにした、越沢三角そば100%の新そば」が提供されました。  
地域みんなが「越沢活性化ビジョン」の実現に向けて、生産量を増やし、品質の統一を図ろうと、動き出した成果です。

四季折々の自然の恵みと多様な資源を強みに、これまで地域を支えた方々への感謝と次世代につないでいこうという地域の方々の思いが伝わる「越沢新そばまつり」。

今年も、盛況でした。

## ～大山上池・下池～



鶴岡市大山にある「上池・下池」が、県内唯一のラムサール条約登録湿地になって10周年。それを記念して、11月10日に記念事業が開催されました。

上池・下池のほとりにある鶴岡市自然学習館「ほとりあ」では、「里山マルシェ」が開催され、さまざまな体験や遊びコーナーに、たくさんの親子連れが訪れ大盛況でした。

出羽庄内国際村で開催された「記念式典・シンポジウム」は、地元の大山小学校4年生による活動発表「ふるさと大山の自然と命をみつめよう」で始まりました。

市内の子どもたちによる「こどもラムサールワークショップ」の活動発表「上池・下池とわたしたち」では、『この池を未来に残したい』と力強く宣言し、参加者に大きな感動を与えてくれました。



シンポジウムでは、大阪府山田池公園の「池の水ぜんぶ抜く」の取組事例や、上池・下池と人々のかかわりなどが発表されました。

続くパネルディスカッションでは、発表者に加え、下池を管理する土地改良区の理事長と池を利用する浮草組合の組合長も参加し、今後の池の利用について前向きな議論が行われました。

今回のテーマは、「上池・下池とわたしたち～現在・過去・未来～」。  
未来に向けて、新たな一歩を踏み出したと感じたシンポジウムでした。



ほとりあ周辺



## 研修会のご案内

### ～『地域を育てる』実践者に学ぶ地域づくり～



研修会のご案内です。

12月5日(水)午後1時30分から研修を行います。

農村環境保全指導員の方々、地域を元気にするための活動を実践している地域、それらの活動事例から自らの地域における課題解決の糸口を見つけよう、と企画したものです。

農村環境保全指導員研修



鈴木農村環境保全指導員の活動(新作の体験：三秋保育園)

## 参加者募集

日時 平成30年 **12月5日(水)**  
13:30～16:00

会場 三川町公民館 多目的ホール  
三川町横山西田52-1  
TEL 0235-66-4403

申込方法  
11月15日(木)まで、裏面の申込書に記入のうえ、FAXでお申し込みください。

主催：山形県  
(お問合せ先)  
庄内総合支庁産業経済部農村対策課  
(企画担当) TEL: 0235-66-5549  
FAX: 0235-66-3018

### 活動報告

◎農村環境保全指導員

鶴岡市鶴岡地域 鈴木正氏	飯豊町 田中俊昭氏
	

◎実践地域

鶴岡市越沢自治会 自治会長 大滝由吉氏	酒田市日向コミュニティ振興会 会長 小松幸雄氏
	

質疑応答・意見交換

農村環境保全指導員の方々の活動については、これまでのNN. REIKOでも紹介してきました。ぜひ、生の声を聞きにお越しください。参加希望は、まだまだ受付中です。

～水土里ネットいなば『収穫感謝祭』～



11月18日(日)、鶴岡市藤島地区地域活動センターにおいて、水土里ネットいなば主催の田んぼの学校『収穫感謝祭』が行われました。

田植え体験から始まった水土里ネットいなば『田んぼの学校』は、本日の収穫感謝祭が今年度最後のイベントです。

始めに、田んぼの学校に参加することにより、農業体験や環境活動に積極的に取組めた方に「いなば子供未来クリエイター認定証」の授与が行われました。



続いて、そばの匠の指導のもと、そば打ち体験。



よくこねると、そばのいい香り



つながらないように慎重に切ります



打ちたて茹でたて、おいしいね



食後に輪投げゲーム

今回も50名ほどの参加者が、そば打ち体験を楽しみました。

富樫理事長から、農業をやってきて、こんなに収量が取れなかったことはない、というお話がありました。日照りと豪雨の影響を受けた1年。農家にとって、厳しい年となりました。そのような中でも、農地、地域を守るために、汗を流している農家の方々、施設を守る改良区の方々に感謝です。

また来年度、田んぼの学校で元気にお会いしましょう！



～in鶴岡市三瀬～



11月25日(日)、鶴岡市三瀬の三瀬コミュニティセンターにおいて、『山の感謝祭in鶴岡市三瀬』が開催されました。

三瀬地区では、「木」に由来するエネルギー「木質バイオマス」を利用し、地域活性化を目指しています。山の恵みを「使おう!」「食べよう!」「ふれあおう!」をテーマに三瀬を満喫するイベントとなりました。



大ホールではSDGsについての学習や薪ストーブユーザーのパネルディスカッションが行われました。



三瀬の産直品、加工品の販売



木のキーホルダーづくり:自分で好きな絵を描いて焼き付ける。ペロリンを描いてみました。

会場には、温海関川地域のしな織に関するコーナーもありました。

地域では、これまで活用されてこなかったしなの花を化粧水やせっけんに加工する取組みが進められています。



体験コーナーでは、しなの木から糸をつくる過程でできる短い繊維を使ってタッセルをつくっていました。

三瀬地区自治会では、SDGs(持続可能な開発目標)により、地域の課題解決に取り組んでいます。

○三瀬地区自治会のプロジェクト

- ・コミュニティセンターに木質バイオマスを導入するプロジェクト
- ・地区の特色ある教育、保育、子育てに資源を利用するプロジェクト
- ・子どもから高齢者まで参加できる森でのイベントや体験をする福祉プロジェクト
- ・森林伐採、保全を通し、効果的な燃料供給を検討するプロジェクト
- ・SDGsの理解も含めた一般啓蒙プロジェクト

三瀬地区に住み続けることができる(=持続可能)ための取組み。地域住民ひとりひとりが理解し、実践する取組みが始まりました。

～登録証伝達式・登録祝賀会～



「世界かんがい施設遺産」に登録された北楯大堰。

11月20日、奈良春日野国際フォーラムにて、遺産登録証の伝達式が行われました。



翌週26日は、これを記念する祝賀会が行われ、登録証と楯が披露されました。



庄内平野の水田農業の一翼を担っている北楯大堰が、農業のみならず、地域の発展への貢献度が高く、適切に維持管理している施設として認められた、この世界的評価を契機に、県は、北楯大堰を積極的にアピールし、関係機関と協力し、地域貢献に取り組んでいきます。





～農村環境保全指導員研修『地域を育てる』～



12月5日(水)、地域づくりに主眼をおいて活動する農村環境保全指導員の方々、地域を元気にするための活動を実践している地域、それらの活動事例から自らの地域における課題解決の手法を学ぼうと、『地域を育てる～実践者に学ぶ地域づくり』と題して、農村環境保全指導員研修会を開催しました。



質問に応える(鶴岡市鶴岡地域)鈴木指導員と活動について説明する(飯豊町)田中指導員



(鶴岡市越沢)大滝自治会長と会場からの質問に応える(酒田市日向コミュニティ振興会)小松会長

地域づくりを実践している4名から活動報告をいただき、そのあとに付箋に書かれた会場から質問に応えるかたちで、活動内容の理解を深めました。

参加者からは、「さまざまな地域の状況を聞くことができよかった」「どの地域も悩みは同じ。情報交換、交流の場が必要と感じた」などの感想をいただき、発表いただいた4名の方々にとって次の活動の励みになるコメントが多く寄せられました。

参加者の思いや考えを付箋に書いてもらうことで、より多くの声を集めることができたようです。

地域の声に耳を傾け、県としていかに関わっていけるか。

農村計画課は、地域を元気にするための活動計画について、地域の皆さんが納得しながら進めていくためのお手伝いをしていきます。

～振り返り緊急時に備える～



12月10日(月)、今年度2回目となる『農地・農業用施設災害復旧事業担当者研修会』を開催しました。研修は、8月豪雨災害のふり返りと復旧工事の発注に向けた事務処理など、災害復旧事業の円滑な執行と事業に対する担当者の理解を深めることが目的です。



8月豪雨災の実地査定の状況(11月実施)被災原因に基づき、復旧計画について説明

農地・農業用施設災害復旧事業に申請した42件の査定が完了し、復旧に向けた準備が本格化します。12月8日、庄内には一度に雪が積もりました。現地状況をみながら、安全第一で進めていただきたいと思います。



～地域の方々と「いただきます」～



NPO法人家根合生態系保全センターの佐藤理事長から、今年の活動に協力いただいたお礼として、庄内町立余目第一小学校に贈呈された、めだかの里米。

12月11日(火)、余目第一小学校4年生が家根合地域の方々を招待し、給食試食会が行われました。



佐藤理事長からひと言



今日の献立 女子がお米を炊き、男子が会場準備をしてもてなしてくれました



今年度の活動をパネルを使ってふり返り

子どもたちからは「頑張って田植えをしたので、おいしかった」「田植えがうまくできなかったけど、慣れたらうまくなった。5年生でも学校田で頑張りたい」「(天候が悪く)稲刈りができなかったのが残念だった」「20年間活動が続いていることがすごいと思った」などの感想がありました。

家根合地域の活動は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全センターが企画運営しているものです。

今年も、子どもたちと地域の方々が、関わり合いながら充実した活動ができました。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まった環境保全活動や農業体験は、余目第一小学校の先生方や地域の方々の理解と協力があって、継続されてきました。

これからも子供たちの思いを受け止めた活動を続けることができるよう、県ができることをお手伝いしていきます。

～焼畑農法で栽培～



鶴岡市温海地域の山あいの地域に一霞集落があります。

長い間、地域で守り育ててきた温海かぶ。伝統の焼畑農法で栽培され、収穫されたかぶは、丁寧に漬け込み、「焼畑あつみかぶ漬け」になります。



今年は、8月の豪雨や台風の影響により「生かぶ」の生育が遅れ、販売量を確保できないため「一霞かぶ祭り」を中止しましたが、その後収穫されたかぶを大事に漬け込み、今年も美味しい漬物ができました。ぜひ、お試しください。

やまがたの農山漁村づくりマガジン『農楽里(norari)』vol.19にも掲載しています(PDF:724kB)。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol.19/norari19HP-P16-P17.pdf>



～長谷川和紙工房 長谷川聡さん～



鶴岡市矢引に『長谷川和紙工房』があります。この工房を営むのは、長谷川聡さん。  
大学を卒業するころ、世の中はバブルの真っ只中。大学で研究をしていた長谷川さんは、「世の中には、残していくべきもの、手間がかかっても必要なものがあるはず」との思いから、『美濃和紙』と出会い、技術を磨きながら、和紙生産の環境整備について、考えてきました。

いま、ユネスコ無形文化遺産に登録され、注目を集めている『美濃和紙』でも後継者養成の課題に直面しています。

和紙づくりを支える原料生産者、つくるまでの工程に必要な道具をつくる職人たち…和紙をつくるうえで、何ひとつ欠けてはならないものがあります。

『和紙』を次の世代へつないでいくためには、産業として成立する仕組みをつくらなければならない、と長谷川さんはおっしゃっていました。



こうぞ(和紙の原料で繊維状のもの)を細かくしたもの



紙すきを容易にする補助の原料、トロロアオイ

まずは、『和紙』にふれ、『和紙』を知るところから。  
間口を広げ、手軽に取組める場をつくる…『和紙』を残していくためには、地域間の連携が必要です。

地域を元気にするために。  
県ができることを考え、応援していきます。

～農村環境保全指導員研修『地域を育てる』～



12月5日(水)に実施した農村環境保全指導員研修『地域を育てる～実践者に学ぶ地域づくり』のまとめ(報告書)が完成しました。

平成30年度農村環境保全指導員研修  
『地域を育てる』  
～実践者に学ぶ地域づくり～



研修のまとめ  
平成30年12月

今回の研修では、参加された皆さんからたくさんの質問をいただきました。この『研修のまとめ』は、当日応えきれなかった質問への回答と皆さんからの感想などを1冊に整理したものです。

参加者自身のふり返りと、講師を引き受けていただいた方々の次の活動への励まし、となればと思います。



12月28日、仕事納めとなりました。

今年1年、農村計画課HP『NN. REIKO』をご覧いただき、ありがとうございました。  
来年も、地域の声に耳を傾け、地域を元気にするためのお手伝いをしていきます。  
引き続き、よろしくお願いいたします。



## ～出羽三山山伏によるご祈祷～



1月8日、出羽三山神社山伏さまより、新年のご祈祷をいただきました。  
(※出羽三山:羽黒山、月山、湯殿山の総称)



日本有数の修験道の聖地、羽黒山。

羽黒修験道は、三山の特色から現在(羽黒山)、過去(月山)、未来(湯殿山)とみたてられ、生きながら若々しい生命(いのち)をよみがえらせる『生まれかわりの旅』として、江戸時代に広がりました。



5月には元号が変わり、十二支最後の亥年となる今年。  
節目を意識して、仕事に臨みたいと思います。  
本年もNN. REIKOをよろしく願いいたします。

～土地改良法改正に学ぶ～



1月16日、『土地改良法改正に学ぶ～土地改良区の資産管理～』と題して、職員研修を行いました。



農業者の高齢化による離農や農地集積が進んだことにより、土地改良区のなかに土地持ち非農家が増え、土地改良施設の維持管理や更新が適切に実施できないおそれがある、などの背景を踏まえ、平成30年6月に土地改良法の一部が改正されました。

土地改良施設の老朽化が進むなか、施設の更新事業費を計画的に積み立てていくためには、改良区の財政状況や施設の現在価値を明確にする必要があります。

このたびの法改正により、土地改良区は決算関係書類として、現行の収支計算書等に加え、原則として貸借対照表を作成・公表することになります。私たちは土地改良事業を実施するものとして、改正の概要を知り、これからの業務に活かす場として、研修会を企画しました。



山形県土地改良事業団体連合会 豊島企画推進役から複式簿記についての解説

最後に、参加者にアンケートを実施しました。



難しい内容が多かったものの、今後の業務にあたり、深くかかわることを認識できた研修となりました。



## ～加茂地域グランドデザイン検討委員会の取組み～



1月20日、鶴岡市加茂地域コミュニティセンターにおいて、『なつかしの味の復活！試作会』が行われました。

加茂地域では、地域の活性化、元気づくりを改めてがんばっていこうと『加茂地域グランドデザイン検討委員会』を設立。地域の課題を4つに分類し、課題解決に向けた取組みを実践する経験を積んで、地域のビジョンを策定する計画です。

『なつかしの味の復活！試作会』は、地域の産業を振興するために地域に必要なことは何だろう、地域に求められるものは何だろう、という視点で検討している「産業チーム」が取り組むことにした企画のひとつ。

本日は、地域の皆さんがなつかしい味、「うさぎ屋さんのコロッケ」を試作しました。



本日の作業と注意点について参加者で確認



実際に使っていた機械で玉ねぎをみじん切りに

当初は、塩分を変えて3種類試作する予定でしたが、店主の渡會さんのアドバイスもあり、油を変えたり、パン粉のつけ方を変えたり、ジャガイモの品種を変えたり、と最後には12種類のコロッケが出来上がりました。

(出来上がり写真は、またの機会。お楽しみに)

この内容は、荘内日報にも掲載される予定です。

少しずつ、一歩ずつ、地域の方々が自分たちの地域のためにできることを実践していく。

加茂地域の元気づくりがまた一歩前進しました。

地域が求める将来の姿に近づくために。

これからも、県ができることをお手伝いしていきます。

～庄内の冬の味覚～



1月29日、庄内では昼過ぎにかけて、雪を伴った暴風が吹き、海上は大しけとなる予報。

「暴風雪や高波に警戒」という気象情報を聞くと、庄内の冬の味覚が恋しくなります。

真冬に獲れる真だらを庄内地域では、寒だら(かんだら)と呼び、地吹雪がひどい今日のような天気には、『どんがら汁』であたたまりたいもの。

※どんがら:寒だらのアラ(頭、内臓、骨、ヒレなどの総称)



あたたまる寒だらの『どんがら汁』



昆布じめにして

新鮮なので、身は昆布じめにして。余すところなくいただける寒だら。  
ぜひ、旬の味をお召し上がりください。



～最上川下流左岸地区現場研修～



1月30日、国営事業最上川下流左岸地区の現場研修を行いました。



地区の概要と補修工法について学ぶ

最上川下流左岸地区は、庄内町余目地域を中心とした最上川下流の左岸に広がる水田地帯を対象とした排水対策事業で、県営事業で造成した施設の機能強化と排水系統の再編を行うものです。東北農政局最上川下流左岸農業水利事業所が事業を実施しています。



現場において工法の説明

これから、国営事業の進捗に併せた関連県営事業の着手に向けて調査が進められていくこととなります。

排水機場の工事が始まる来年度以降も、現場研修の機会を設けながら、職員の技術力向上を目指します。

～ワークショップ運営の手法を体感～



2月5日(火)午後から6日(水)の夕方までの1日半、ワークショップシナリオ作成研修が行われました。  
中山間地域をはじめとする農山漁村における地域づくりでは、住民のやる気の醸成と合意形成を図る手段として、ワークショップの開催が効果的な手法のひとつとなっています。  
山形県でもその手法の重要性に早くから着目し、地域の要請等に対して地域づくりワークショップ運営を支援してきました。



小野邦雄さんの講義



班ごとに個々の考えを伝えあい、納得しながら一つの方法にまとめていく作業



議論を深めることの大切さを実感する

地域づくりとは何か、地域づくり技術者(プランナー、ファシリテーター)の要件・役割について、ある地域の事例を基にワークショップを体験しながら、研修を進めていきました。

「地域づくり」は人づくり。人が地域のために活動を実践することで、地域に合った環境がつくられ、維持されていく...それがうまく回る仕組みを整えていくこと。

今回の参加者は、6割が土地改良区の若手職員の方々でした。

地域の農業者が減っていくなかで、地域のこれからの農業について、農家の方々と話しながら、合意形成を図る、という場面は、これから多くなると思います。

普段の業務と違う切り口だった今回の研修は、参加者にとって、多くの気づきがあった2日間となったようです。

「地域づくりプランナー」。

「地域」の想いに応え、地域がめざすべき方向を探すために、地域の力になれる。

地域での話し合いの場をつくることから、プランナーの力は求められています。



～2019冬号 配信しています～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

冬号は、1月29日に山形県HPにアップされました。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」冬号

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回の特集は、「地域の色を醸(かも)す」。

県内各地で地域の特徴を活かした日本酒・ビール・焼酎をつくる取組みを紹介しています。

庄内からは、遊佐町特産焼酎プロジェクト『耕作くん』。耕作放棄地から特産品をつくろうと、栽培しやすく、様々な加工ができる「サツマイモ」を生産。芋焼酎の製造販売に乗り出した活動を取材しました。

ぜひご覧ください。

取材の様子は、NN. REIKO第556回耕作くん～砂丘放棄地から本格芋焼酎～でお伝えしています。

バックナンバーから検索してみてください。

～WSシナリオ作成研修ドキュメントが完成～



2月5日(火)午後から6日(水)の夕方まで実施した、ワークショップシナリオ作成研修のドキュメントが完成しました。

山形県地域づくりプランナー養成研修  
ワークショップシナリオ作成研修  
ドキュメント  
平成31年2月5日～6日(庄内ブロック)



「ドキュメント」は、今回の研修の成果をまとめ、参加者が振り返るためのアイテムになります。  
地域づくり技術者は、ワークショップにより、「正解」ではなく、「みんなの納得」を引き出し、その成果をまとめます。

このまとめを参加者に返すことにより、たとえ時間が経過しても、話し合ったときの思いや感覚をよみがえらせることができます。

地域の話合いのなかで、時間の経過とともに、意識を共有することの難しさを感じる場合があります。  
今回の研修に参加した方々の多くは、各々の考えを伝えあい、それを整理してまとめていくことに苦労したようですが、それと同時に、班ごとのチームワークの高まりに達成感を感じた方もいたはずですよ。  
ぜひ、その喜びを忘れず、地域に向き合っていただければと思います。  
参加いただいた皆さんの今後に、期待しています。



～鶴岡市羽黒町 高田庄平さん～



鶴岡市羽黒地域月山ろく畑団地で、アスパラガスと月山高原にんじんに取り組んでいる高田庄平さん。大学卒業後、都内のIT関連会社に就職しましたが、会社員ではできない時間の使い方、生き方について考えるようになり、2010年に東京からUターンして、農業の道を選びました。

にんじんの栽培を始めたのは2013年から。県内に大規模生産者が少なく、需要が見込めることが理由です。

栽培のノウハウや情報は、インターネットやYouTubeから学び、東京、青森などの先進地を視察することにより、地域に合う方法を見つけるため、試行錯誤を繰り返してきました。



高田庄平さん



月山高原にんじんを使ったジュース

庄平さんの話を聞いていると、農家の常識、固定観念にとらわれない自由な発想に驚かされます。

栽培条件として厳しく、遊休地が増えている「月山ろくの畑団地」でにんじん栽培をしている理由は、まとめて借りることができたから。

ゼロから農業を始めた自分が、「儲かるビジネスモデル」をつくり、若い人たちと一緒に取り組んでいけたら。

庄平さんに刺激を受けて農業を始める若者がでてくる・・・そのような状況まであと少し。

失敗してもあきらめないのは、自分の経営の身の丈を意識した、綿密な計画があるからこそ、と感じました。

臭みがなく、甘くてまろやかな、味わいの月山高原にんじん。

ぜひ、お試しください。

～加茂地区の元気をつくる取組み～



2月24日(日)、加茂地区コミュニティセンターにおいて「加茂地区市民作品展」が行われました。  
春のような暖かい日差し。天気にも恵まれて、地域のお年寄りから子どもまで、たくさんの方々が訪れました。



地域を元気にしようと活動している「おもしろいかも」。地域の特産品をつくろうと試作を重ねて商品化した「さざ波の福くるみ餅」は品出しから10分で完売。



「加茂地区グランドデザイン検討委員会」産業チームのコロッケ試食も行われ、多くの方が地域の想い出の味に関心を持ち、復活を望んでいることがわかりました。



試食のあとは、アンケートに記入

作品展は地域の方々がこの1年で製作した作品を発表する場であるとともに、現在の地域の状況を知ってもらう機会でもあります。

地域が元気になるには、地域に住む皆さんに関心を持ってもらうところから。

3月7日(木)19時から加茂コミュニティセンターにおいて、加茂地区グランドデザイン検討委員会の中間報告会が行われます。

これまでの各チームの取組みをふり返り、実践活動における課題や成果をみんなで共有することで、新たな1歩を踏み出そうとするものです。地域の方々、ぜひ聞きに来てください。

地域を元気にするには、地域の皆さんひとりひとりの力が必要です。

農村計画課は、そのお手伝いをしていきます。



～笹川左岸上流・中川代地区～



2月27日(水)鶴岡市羽黒町中川代公民館において、笹川土地改良区管内でも上流部の「笹川左岸上流」「中川代」地区における、これからの農業、これからの地域のあり方について語り合うワークショップを行いました。

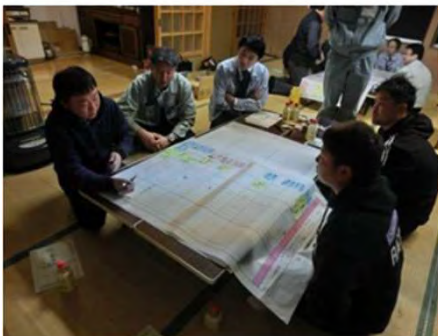
本日は、その3回目。

これまで、地域の課題や営農の課題を洗い出し、課題解決のための方法話し合ってきました。

今回は、それを実現するための役割分担、工程について考えました。



前回の提案をふり返り、実践するには、誰が、いつまで、何に留意すべきか。



世代ごとに発想が異なることを実感。班ごとに発表し、参加者全員で考えを共有する。

農地を維持し、営農を継続していくためには、ほ場条件を整えることが必須条件。農業者が減っていくなか、県内各地で、ほ場整備の要望が高まっている理由です。

ただし、ほ場整備により、すべてが解決するわけではありません。

整備はあくまで手段です。将来、地域でどのような農業をしていくのか、今回のワークショップを機に、ひとりひとりの考えを確かめ合い、営農計画をつくりあげてほしいと思います。

世代を超えて、それぞれを尊重し合う話し合い。ひとりひとりが納得しながら、進めていきたいものです。

農村計画課は、これからも話し合いのお手伝いしていきます。

～農村環境保全指導員の活動状況26～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

3月2日(土)、鶴岡市三瀬地域の鈴木正農村環境保全指導員が企画した笹まきつくり体験会が行われました。

笹まきつくり体験会は、今回で5回目。16名が参加しました。



鈴木農村環境保全指導員から本日の流れを説明

三瀬地域の笹まきは、地域に自生する笹の葉を使い、地域の山から出る薪で暖を取った後の灰汁をもち米に吸水させる、地域の産物だけで作ることができる地域の伝統食です。

地域では、商品品質の統一を図ろうと、灰汁水濃度と仕上がりの関係性について、鶴岡高専に調査依頼をしたそうですが、灰汁水濃度が計測不能で数値化できなかったとのこと。

「笹まき」の販売数量を増やしていくにあたって、品質の統一は大事なポイントです。

数値化できないとなると、経験を積んだ担い手を確保していくほかありません。

若い世代へいかに伝えていか、様々な視点で考えていく必要があるようです。



三角巻きの巻き方(何度聞いても難しい) 中華ちまきと笹まきの出来上がり

県は、地域を元気にする活動を応援しています。



### ～鳥獣食害を減らす取組み～



小規模ながら安定した電力として期待される小水力発電。庄内地域での取組みを紹介します。

鶴岡市大網地域では、丹精込めて育てた作物が、収穫前にサルに根こそぎ食べられてしまう被害が頻発。

条件不利地で懸命に農地を保全し、営農してきた農家の方々の意欲がそがれないようにと、畑に電気柵を設置し、食害防止を試みました。

電気は水路に設置した発電装置から生み出します。

今年度は幅50cm高さ40cmのコンクリート水路の30cmほどの落差を利用して発電する装置を設置。この2年で試作を重ね、課題も見えてきました。



設置の状況

3月2日(土)、大網地域の方々に、これまでの取組みを報告する機会をいただきました。



鶴岡高専 本橋教授の説明



取組みについて聞き入る大網地域の方々

鶴岡高専では、引き続き現地で実証試験をしていくそうです。

地域資源を活用した取組みは、大網地域の方々の協力をいただきながら進められていきます。

### ～受注者と共によりいい現場をつくる～



3月5日(火)午後から、管内市町、土地改良区の職員を対象とした『工事監督業務研修会』を行いました。9月3日の第1回研修会では、基礎的な設計積算から工事の流れについての理解を深めました。今回は、実施中の現場で工事監督業務や現場の安全管理について学ぶものです。



工事監督業務と現場の安全管理についての説明



広野地区で現場研修

現場では、工事監督員が現場で確認する項目(施工内容の把握、進捗の確認、安全管理の確認など)について学びました。

併せて、受注者が冬期間の施工で気を付けることについてお話しいただき、理解を深めました。

年度末に向けて、現場作業はあわただしさが増しますが、そんな時こそ、作業の安全を第一に。発注者としても、意識して対応したいものです。



## ～加茂地域グランドデザイン検討委員会の中間報告会～



3月7日、鶴岡市加茂地域コミュニティセンターにおいて、『加茂地域グランドデザイン検討委員会中間報告会』が行われました。

加茂地域では、地域の活性化、元気づくりを改めてがんばっていこうと『加茂地域グランドデザイン検討委員会』を設立。地域の課題を5つに分類し、昨年の10月から4チームに分かれて課題解決に向けた取組みを進めてきました。

地域の皆さんが実践する経験を積み、これから策定する地域ビジョンに反映させていく計画です。



地域のこれまでの振り返っての将来予測

4つに分かれた検討チームが、これまでにどんな取組みを行ってきたのか。

その経過を説明し、話し合いのなかで重視してきた点、うまくいったこと、苦勞したことをふり返りました。



真剣にメモを取りながら聞く



発表により委員の情報共有を図る

この5か月、どのチームも6回以上集まり、課題解決のために検討を重ねてきました。その実績が皆さんの自信となり、今回の中間発表会は熱の入ったものとなりました。

講師として山形県地域づくりプランナーNo.5の高橋信博さんを迎え、各チームから実践にあたり悩んだことや同じ課題に取り組んだ地域の成功例などの質問がありました。

目からウロコの全国各地の事例に、多くのヒントをもらったようです。



全国各地の事例を紹介



大満足！笑顔で記念撮影

今回は、検討委員のほかに、加茂地域の方々が20名程、参加しました。  
地域の方々の関心が少しずつ高まることで、検討委員の方々の気持ちも更に上向きに。  
少しずつ、地域の方々が自分たちの地域のためにできることを実践していく。  
加茂地域の元気づくりは、本日ギアチェンジ。  
来年度に向けて、また一歩踏み出しました。

地域が求める将来の姿に近づくために。  
これからも、県ができることをお手伝いしていきます。



～農地地すべり防止区域で融雪状況調査～



農地地すべり防止区域は、庄内管内に6か所あり、そのうち5か所を県が管理しています。  
(直轄地すべり対策事業で対策工事を実施してきた七五三掛(しめかけ)地区は、4月1日から県管理となります)

今年も3月7日から、融雪状況調査を始めました。

融雪状況調査は、毎年3月から4月上旬ごろまで、区域の積雪量と雪の密度を定期的に測定し、融雪量を雨量に換算することで、その傾向を確認するものです。

当課では、7年前から実施し、そのデータを蓄積しています。



積雪量の測定。このあと密度も測定。



どの地区も例年に比べ積雪量が少ない

本日の点検では、不自然な融雪、雪崩、崩落等はなく、異状なし。  
積雪量は少なくとも、マメな点検が早期の異状発見につながります。

災害が起こりませんように。  
祈りつつ、その備えは、万全に。

## ～『メダカライス純米酒』新酒お披露目会～



3月15日(金)、メダカライス純米酒の新酒お披露目会が醸造元やまと桜の母屋にて行われました。



社長から「新酒はこれまでで一番の仕上がり」



NPO法人家根合生態系保全活動センター佐藤理事長

今年で家根合地区のメダカ保全活動20周年、NPO法人設立15周年。  
これを機に、これまでの活動を整理し「メダカ保全活動の歩み」として1冊にまとめました。  
写真で振り返る、想いのこもったものに仕上がっています。

佐藤理事長から、「これまでの活動は、たくさんの人たちがつながり、築いてきたもの。だからこそ、続ける  
ことができた。今後も地域みんなで活動を継続していきたい。」とあいさつがありました。



家根合地域の環境保全活動から大人の楽しみとして始まった純米酒づくりは、今年で13年目。  
JR余目駅、庄内町新産業創造館クラッセ「なんでもバザールあつてば」などで販売しています。  
ぜひ、お試しください。



～『農楽里norari』2019年春号vol.32～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。



今回の特集は、「ため池と生きる」。

近年、地震や大雨により、ため池そのものが被災し、下流域に被害を与える事例があり、ため池の安全について関心が高まっています。

地域のくらしのなかで守られ、管理されてきたため池。県内各地のため池と地域のかかわりを取材しました。

庄内からは、庄内町三ヶ沢地区活動組織の点検と管理、鶴岡市大山上池・下池とその周辺の自然環境と地域の関わりを紹介しています。

春号は、まもなく山形県HPにアップされます。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」2019年春号

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>

3月24日、下池へ出かけてみました。



この時期には珍しく、雪が舞う下池



急な降雪にカッガリと肩を落としたように見える「カタクリ」



例年はこんな感じです

春を探しにため池へ出かけてみてはいかがでしょうか。



～ご覧いただきありがとうございました～



平成22年から始めた庄内総合支庁農村計画課ホームページは、今回で600回となりました。  
平成28年4月に着任し、第302回から3代目NN.REIKOとして、週に1回以上、新しい情報を届けることを目標に、皆さまに楽しんでいただけるホームページを目指してまいりましたが、いかがでしたでしょうか。

情報は鮮度が命。まずは、マメにお知らせすることを第一に情報をアップしてきました。  
でも、それが効果的な情報発信につながるかというと、必ずしもそうとはいえません。  
たくさんの方々に新鮮な情報をいかに届けるか、その難しさを感じ、悩みながらも回を重ねてきました。

3代目としてお伝えするのは、今回で最後。  
庄内で頑張っている多くの方々と出会い、その活動の励みになればと情報を発信してきた3年間。  
ご覧いただき、ありがとうございました。  
今後とも、庄内の農業農村整備にご支援とご協力をお願いいたします。